

収蔵資料から

其の96 第10歌集『白梅集』



発行日：大正6年8月5日
発行所：抒情詩社
収録歌数：(牧水) 222首 (喜志子) 247首

第10歌集『白梅集』は、大正5年5月から6年4月までの歌が収録されています。喜志子の病氣療養で神奈川県三浦半島北下浦転居中の歌、仕事のため単身上京中の歌、家族全員で東京へ引き上げてからの歌が収められています。

15冊の歌集のうち、『白梅集』だけは喜志子との合著になっており、牧水に続いて喜志子が三浦半島時代に詠んだ歌247首が収められています。

三浦半島時代も、東京に戻ってからも相変わらず窮乏はひどかったため、『白梅集』の歌はそれを反映したものが多く、自序には次のように書いています。

「ともすれば絶望的な、自暴自棄的な、とり乱した心のひびきが随所に見えて居ることが自分自身にもよく感ぜられて誠に苦しい心地である。」

(参照『若山牧水全集』)

牧水歌碑めぐり

其の97 花敷温泉 (群馬県)



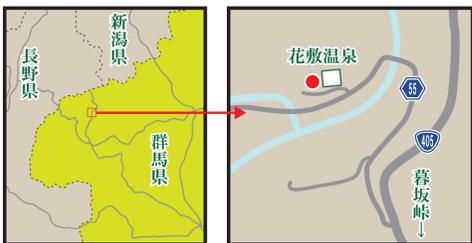
大正十一年十月十九日 野田吾妻郡花敷温泉と
いふに宿り翌朝出立す (歌はペン書きの原稿から)

ひと夜寝てわがたち出づる山蔭の
温泉の村に雪降りけり

牧水

大正11年10月、牧水は長野、群馬各地を巡る旅に出かけます。10月18日、草津温泉から山道を下って小雨村(現中之条町六合)に着き、そこから暮坂峠を目指す途中、分かれ道から花敷温泉へ向かい一泊します。翌朝、まだ足もとの暗いうちに宿を出ます。道にはまだらに雪が積もり、山々もすっかり雪に覆われていました。

その時の様子を詠んだ歌碑が、花敷温泉に建てられています。歌は全国でも珍しい原稿のペン文字を使っており、周辺には他8基の歌碑が建てられています。



(参照『若山牧水全国歌碑集』)

文学館だより

令和7年1月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責日高第105号

あけましておめでとうございます
昨年も、第74回牧水祭をはじめ多くの方々に牧水のふるさと日向市東郷町坪谷にお越しいただき、ありがとうございました。
今年も全国へ牧水先生の魅力を発信してまいります。
よろしく願いいたします。



3月までの企画展

ワクワク♡ ワクワク♡ ワクワク♡

企画	内容	期間
牧水遺墨展示	収蔵する牧水遺墨から当館初公開および展示機会の少なかった遺墨を展示	1/7~3/30
高森文夫直筆原稿展示	未刊直筆原稿集「嬌羞の歌」詩51篇を順次展示	継続中
榎倉香邨遺作展3	牧水短歌を書くことをライフワークとした故榎倉香邨氏を偲び、同氏から寄贈された牧水短歌の書を展示	1/7~1/25
第29回若山牧水賞	受賞者大辻隆弘氏・高山邦男氏紹介 歴代受賞者歌集・直筆自選5首・直筆色紙展示 ※1/31来訪	1/28~2/25
牧水母校作品展	坪谷小学校全校児童、延岡高等学校生徒、早稲田大学短歌会学生が詠んだ短歌と牧水が学生時代に詠んだ短歌を展示	2/1~

昨年は日向市内の小学校2校に向向き、牧水先生の授業を行いました。一昨年は公民館教室での短歌づくり、中学校では6年生と中学1年生の牧水かるた交流に出かけました。牧水先生のうたを知るもよし、牧水かるた体験もよし、70基あるという日向市内の牧水歌碑を探すもよし、短歌を詠むもよし、私たち日向の大先輩若山牧水に興味をもってもらえたらという思いで話をしています。今年も、学校、職場に向向き。どうぞ声をかけてください。
今年も牧水生誕140年、目に留まった方心に留まった方、牧水教室を始めてみませんか。



短歌づくり
挑戦



牧水かるた
交流



牧水かるた
初挑戦

久永草太さん 第1歌集「命の部首」刊行



そりゃそうさ口が命の部首だから食べてゆく他ないんだ今日も
ヤマリとは家守だという長居してくれる今晚台風が来る
鳥を診る医者になりたし我を背に乗せられるほどの巨鳥の医者に
老い先がないからちょうどいいと言ひ祖母が乗りくる我が試運転
「ふと思ひ立って」の欄が欲しかった問診票の来院理由

歌人で獣医師の久永草太さん。宮崎市出身、宮崎市在住。第6回牧水・短歌甲子園出場の経験をもつ。現在は、牧水・短歌甲子園 OBOG 会「みなど」に所属し、牧水・短歌甲子園開催両日にはフィールドアナウンサーとして大会運営に携わっている。
昨年、久永さんは第一歌集『命の部首』を刊行した。早くも重版の運びのようだ。
手に取って読んでほしい1冊である。
文学館でも閲覧できる。

第14回 青の國若山牧水短歌大会表彰式開催 2024.12.15



青の國若山牧水短歌大会も時を重ね第14回を迎え、今年も4,731首の短歌が牧水のふるさと日向市に寄せられました。選者でいらっしやる歌人大口玲子(おおくちりょうこ)先生は、表彰式に出席している受賞者お一人お一人へ講評されました。
伊藤一彦先生は、牧水に触れつつ、印象深かった若い世代の短歌にも触れ講評されました。最後は「歌い続けること、休んでもいい、やめないこと」を強調して結びとされました。
また、今大会は日本ハムマーケティング株式会社宮崎サテライト様から協賛いただき、各部門優良賞以上の受賞者に日本ハム賞品が贈られました。日本ハムマーケティング株式会社宮崎サテライト様ありがとうございました。



牧水を詠んだ入賞作品

【一般の部自由題 最優秀賞】 宮崎県延岡市 片伯部りつこ様
字は体を表すと思ふ牧水はまるくやはらかに満月のやう

【一般の部自由題 佳作】 埼玉県白岡市 中村 和江様
牧水の歌碑の回りの草むしる長多喜旅館の主人の生直なもてなし

【小学生の部 優良賞】 日向市立日知屋東小学校 6年 松野 咲菜さん
雨の中水にぬれた東ごうで水を愛した牧水思う



大賞と各部門優良賞以上に贈られた楯
左側には、受賞作品を印字しています



各部門佳作入賞者に贈られた賞状
楯同様、受賞作品を印字しています

表彰式終了後、大賞受賞佐々木泰三さんと題詠優良賞受賞平尾潤子さんが牧水生誕地坪谷にお立ち寄りくださいました。



牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

寒の水に身はこほれども浴び浴ぶるひびきにこたへ力湧き来る
かのみずに みはこおれども あびあぶる ひびきにこたえ ちからわききたる

大正11年「みなかみ紀行」の旅から戻った牧水は、寒中冷水浴をし、節酒をして健康に注意するようになった。寒の水を浴びて身は凍るけれども、清らかに澄んだ水の響きに応えるように体の中から力が湧いてくること詠んでいる。
状況は違えど、新年を迎え「力湧き来る」何かそれぞれにあることだろう。新しいことを始めるもよし、継続するもよし。新年を迎え、今一度声に出して読んでみてはもらえないか。

寒の水に身はこほれども
浴び浴ぶるひびきにこたへ
力湧き来る
牧水

榎倉香邨遺作展3

牧水愛あふれる書作品を展示

会期 1月7日(火)~1月25日(土)
会場 若山牧水記念文学館 企画展示室

令和4年1月、98歳で逝去された榎倉香邨先生は、牧水短歌をモチーフにした書をライフワークとした現代かな書最高峰の書家でした。

没後3年を迎えた先生の遺徳を偲び、ご寄贈いただいた書作品を展示します。



榎倉香邨先生



接吻II

牧水遺墨展示

5種類の遺墨9点を展示

会期 1月7日(火)~3月30日(日)
会場 若山牧水記念文学館 第1展示室

当館が収蔵する牧水遺墨のうち、本館初公開及びこれまで展示機会の少なかった遺墨を展示します。短冊や半折に加え、板に彫られた作品など、牧水の様々な遺墨が楽しめます。
【本年度新たに収蔵した短冊】
石あらし桃のはたけをつちかへる
おとの聞えて二月と奈りぬ 牧水
おとの聞えて二月と奈りぬ 牧水
牧水が沼津に建てた家は、周囲を桃畑に囲まれていた。やや乾燥した土を好む桃のため、桃農家は冬の間に固まった土を耕して水はけをよくする。その様子を詠んだ一首である。

若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地



■利用案内■
【開館時間】9:00~17:00 (入館は16:30まで)
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日~1月3日)
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp